

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

三方湖 サイト

－福井県三方上中郡－

三方湖は、隣接する水月湖・菅湖・久々子湖・日向湖と共に三方五湖と総称されます。5つの湖の水は、その立地によってそれぞれ異なった塩分を呈し、最も上流に位置する三方湖の湖水はほぼ淡水です。主な流入河川は鱒川及び別所川で、三方湖の水は水路を通じて水月湖に流出します。三方湖の魚類相は、日本列島における東西の移行帯に当たり、これまでハスやイチモンジタナゴ、ナガブナなど貴重な魚類が確認されています。本湖は、若狭湾国定公園内に位置し、国指定の名勝及びラムサール条約湿地にも登録されています。また、環境省により外来種の駆除や自然護岸再生等の三方五湖自然再生事業が実施されています。



タモ網を用いた調査の様子（2017年5月31日撮影）。
定置網で捕獲しにくい魚類を採集します。



ニホンウナギ（絶滅危惧IB類）（2017年6月1日撮影）。
産卵や生育のために海と淡水域を回遊します。



調査地の風景（2017年5月31日撮影）。
1回目調査は良い天候の中、調査を実施できました。

2017年度の調査結果概要

三方湖サイトは今年度から新たに設置したサイトです。1回目の調査は5月31～6月1日に、2回目の調査は10月14～15日に実施しました。定置網に入網した魚類を回収し、種を同定した後、種ごとに総個体数と総湿重量を測定しました。また、定置網で採集しにくい魚種を捕獲するための補助調査として、投網とタモ網を用いた採集を行いました。1回目の調査では8種、2回目は11種、計12種の魚類が確認されました。確認された魚類のうち、絶滅危惧種（環境省レッドリスト掲載種）としては、ニホンウナギ（絶滅危惧IB類）が確認されました。一方、国外外来種であり特定外来生物であるブルーギルとオオクチバスも確認されました。

個体数でみると、1回目調査ではウキゴリやスズキが、2回目の調査ではギンブナやブルーギルが多く採集されました。2回目の調査では、ブルーギルが多く採集されると共に、2個体のみではありますがオオクチバスの稚魚が確認され、在来生物への悪影響が懸念されます。引き続きモニタリングを実施し、外来魚の増減などについて注視していく必要があります。

【調査者・調査協力者】富永 修・石田健大・竹内 優(福井県立大学)、横井謙一・井藤大樹(日本国際湿地保全連合)



タモロコ（2017年10月15日撮影）。
三方湖の集団はホンモロコに形態が似ていると言われています。



定置網を引き上げる様子（2017年6月1日撮影）。



ブルーギル（国外外来種）（2017年6月1日撮影）。
在来生物へ影響を及ぼすため特定外来生物に指定されています。



モツゴ（2016年10月15日撮影）。

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

穴道湖 サイト

ー 島根県出雲市 ー

穴道湖は、島根県東部に位置する汽水湖で、海跡湖に分類されます。本湖には、斐伊川をはじめ、平田船川や新建川等、約 17 河川が流入し、湖水は、大橋川から中海に流出します。また、大橋川の他にも、人工的に開削された佐陀川を通じて日本海に直接湖水が流出しています。穴道湖には、ボラやスズキ、シラウオなどの汽水性魚類とギンブナやコイ、カワヒガイなどの純淡水性魚類の両方が生息しています。さらに、穴道湖の名前を冠するシンジコハゼの日本における代表的な生息地です。本湖は、穴道湖北山県立自然公園及びラムサール条約湿地に登録されています。シジミ漁が盛んに行われており、名産品となっています。



調査地の風景（2017 年 6 月 28 日撮影）。
この日は風もなく穏やかな天候の中、調査を実施できました。



投網を用いた調査の様子（2017 年 6 月 28 日撮影）。
定置網で捕獲しにくい魚類を採集します。



定置網を引き上げる様子（2017 年 9 月 29 日撮影）。

2017 年度の調査結果概要

穴道湖サイトは今年度から新たに設置したサイトです。1 回目の調査は 6 月 27 ～ 29 日に、2 回目の調査は 9 月 27 ～ 29 日に実施しました。定置網に入網した魚類を回収し、種を同定した後に、種ごとに総個体数を計数し、総湿重量を計量しました。また、定置網で採集しにくい魚種を捕獲するための補助調査として、投網とタモ網を用いた採集を行いました。

1 回目の調査では 9 種、2 回目の調査では 10 種、全体では 14 種の魚類が確認されました。確認された魚類のうち、絶滅危惧種（環境省レッドリスト掲載種）としては、シンジコハゼ（絶滅危惧Ⅱ類）が確認されました。一方、国外外来種であり、特定外来生物でもあるブルーギルが採集されました。また、国外外来種としてタイリクバラタナゴも確認されました。

なお、1 回目の調査ではアシシロハゼやウロハゼが、2 回目調査ではシモフリシマハゼやヌマチチブが多く採集されました。また、ハゼ類やボラ、スズキが採集され、汽水湖特有の魚類相を反映した調査結果となりました。

【調査者・調査協力者】中畑勝見・山口勝秀・寺岡誠二（穴道湖自然館ゴビウス）、井藤大樹（日本国際湿地保全連合）



スズキ（2017 年 6 月 29 日撮影）。
汽水湖である穴道湖ならではの種と言えます。



シンジコハゼ（絶滅危惧Ⅱ類）（2017 年 6 月 29 日撮影）。
穴道湖を代表するハゼの仲間です。



ブルーギル（国外外来種）（2017 年 9 月 29 日撮影）。
定置網で幼魚が採集されました。



ボラ（2017 年 9 月 29 日撮影）。
投網で採集されました。